

我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立瀬田北中学校

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◇結果について◇

今年度の4月に行われた全国学力・学習状況調査では、国語・数学の2教科、また質問紙による調査が実施されました。以下に本校の傾向の一部を示します。

国語

「漢字を書く」「短歌に用いられている表現の技法を説明したものでして適切なものを選択する」などの「言葉の特徴や使い方に関する事項」については全国平均と比較しても高い正答率でした。一方で、「本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する」など思考・判断・表現の「読むこと」に関する問題の正答率は全国平均を下回る結果となっており、文章の全体と部分の関係に注意して読む力や目的に応じて必要な部分に着目して読む力を高めていく必要があると考えられます。また、記述式の問題に関しては全ての問題で無回答率が全国平均を上回る結果となっており、粘り強く課題に取り組む力や記述する力に課題があると考えられます。

数学

「文字式を用いて事象を一般的に表すこと」「数学的確率を求めること」「与えられたデータから代表値を求めること」など、知識・技能を問う問題について、全国平均と比較して正答率が高かったです。一方で、「複数のデータの傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できるかどうか」については全国の平均正答率を数ポイント下回る結果となりました。日常生活や社会の事象を考察する場面において、ある事柄が成り立つ理由について根拠を明らかにして説明する力をさらに高める必要があると考えます。

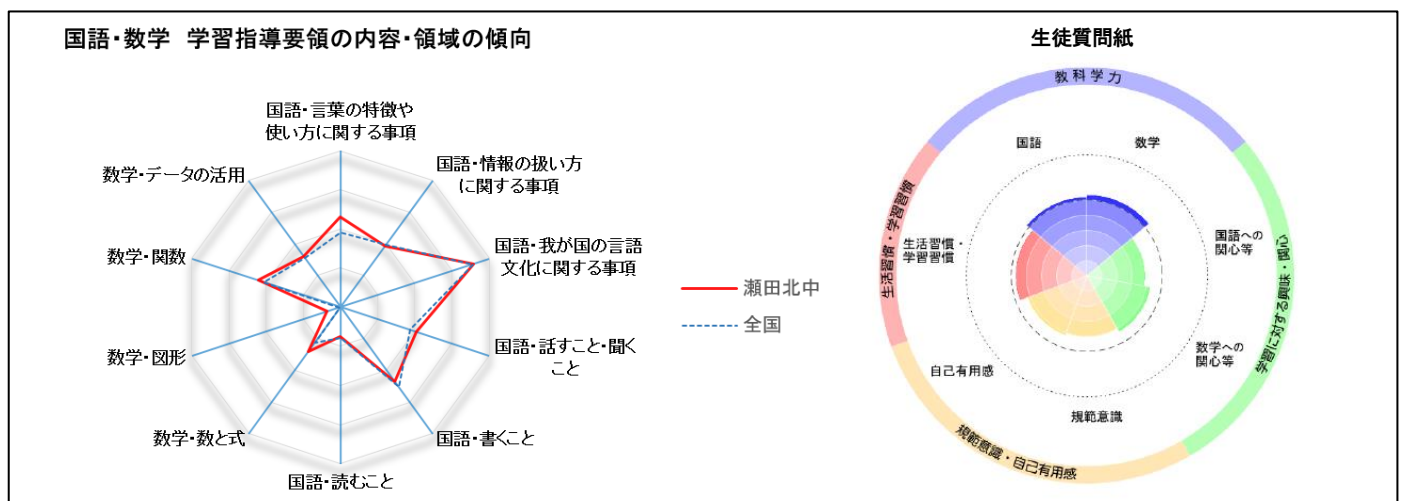
質問紙調査より

「1、2年生の時の授業でPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」という質問に対して、52.2%の生徒が「ほぼ毎日」と回答しました。これは全国・滋賀県の平均を大きく上回っており、ICT機器を利用した学習を積極的に進められていることがわかります。活用方法としては、「分からないことがあった時にすぐに調べられる」と答えた生徒が最も多かったです。一方で「自分のペースで学習を進められる」に「とてもそう思う」と答えた生徒は23.1%にとどまっており、ICT機器の活用が生徒にとっての個別最適な学びにつながるよう、さらに工夫することが必要であると考えます。

また、「自分には良いところがあると思いますか」という自己肯定感に関する質問では、過去3年間と比較して肯定的な回答の割合が増えています。ただ、全国、滋賀県の結果に比べると、その数値は高くはありません。日々の教育活動はもとより、奉仕活動や大人からの温かい声かけ等を通して、自信を持って様々な事にチャレンジできる生徒の育成を目指したいと考えています。

※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。

◇強み・弱みレーダーチャート◇



◇指導の充実に向けて◇

- ① 瀬田北のあたりまえ「あいさつ・礼儀・身だしなみ・思いやり」を励行する。【望ましい生活習慣、規範意識の育成】
- ② 授業、学校行事、地域 Ranger 活動などを通して豊かな人間関係の構築を目指す。【問題解決力、自己肯定感の育成】
- ③ 学習内容の「めあて」と「振り返り」を大切に、主体的で深い学びを実現する。【自己調整力、主体性の向上】
- ④ ICT 機器や体験活動を効果的に活用した対話的な学びを充実させる。【自己表現力の育成】